



託北だより「あすなろ」No.57

「和」～敬・愛・信～

令和7年6月9日（月）

熊本市立託麻北小学校

文責：小倉 秀俊



HPコード

☀ 「己の欲せざるところは」

6月5日（木）に、全校朝会を行いました。6月16日～6月28日は、人権旬間です。それに関して、次のような話をしました。（抜粋）

今日は、「いじめ」と「心」についてのお話をします。この話は、昨年もおととしもしました。2年生以上の人は覚えていますか。

これが「心」です。ふだんは見えませんが、今日は見えるようにしました。

この「こころ」が「いじめ」を受けたとします。

さて、「いじめ」には、どんな「いじめ」がありますか？

- ▲「悪口」 ▲「暴力」 ▲「仲間外れ」
- ▲「無視」 ▲「からかい」

ほかにも色々な「いじめ」があると思います。

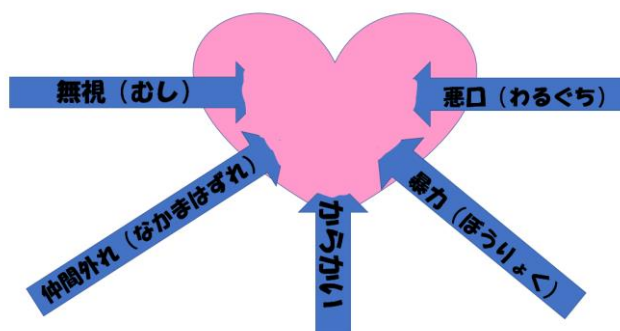
いじめられた人の「心」は、こんなふうに傷ついています。このように、心が傷つけられてしまうと、「学校に来られなくなる人」、「家から出られなくなる人」、「絶望して、死んでしまう人」もいます。

こんなふうに、「いじめの矢」が「心」に突き刺さっている友だちが、まわりにいませんか？ もしいたら、どうしたらよいと思いますか？

「心」が壊れてしまう前に、「いじめの矢」を抜かなければなりません。でも、「いじめの矢」は、いじめられている本人には、なかなか抜くことが難しいのです。

では、どうやったら「心」に刺さった「いじめを抜く」ことができるのでしょうか？

そうですね。まわりの人の協力が必要です。



○「あなたは一人じゃないよ。」「大丈夫だよ、私がついているよ。」と声をかける。○周りの人が、いじめをしている人へ「やめろよ。」と止める。

もう一度、この「心」を見てください。「いじめの矢」が抜けたあとは、どうなっていますか？ 傷跡が残っていますね。「いじめの矢」を全部抜いても、「いじめ」の跡は残るのです。なかなか消えないのです。一生、忘れることはできないかもしれません。

今からおよそ2500年前に、中国の思想家、孔子が次のよう言葉を残しています。

「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」

「自分がしてほしいことは人にしてはいけない」という意味です。簡単なことですが、意識しないとなかなかわからないのです。そのためには相手の気持ちを考えることが大切です。難しい言葉ですが、皆さんにはぜひ覚えてほしいと思います。

孔子の言葉は、全員で何度か音読しました。覚えて暗唱する子もいました。この論語の一節は、約2500年前から大切にされている言葉です。逆にとらえると、人の心は2500年前から変わらないということです。しかし、だからこそ、教え伝えていかなければいけないのだと思います。



横山忠克先生 作

コーヒーブレイク



「銀河鉄道の夜」の作者宮沢賢治が、「石」好きであったのは有名な話です。子どもの頃から「石っこ賢さん」と呼ばれるほど、石の収集に夢中になっていたそうです。先日「ドキュメント72時間」という番組を見ていると、新潟のとある海岸での「翡翠（ひすい）探し」が紹介されていました。休みの日には県外からも集まるほど人気で、近くには真贋を見極める専門家もいました。ほとんどが大人でしたが、中には、小学生もいて、難しい専門用語を交えながらよどみなく説明をしていました。そういえば、託麻北小にも、同じように「石好き」の子がいたなあと思いながら見ていました。私も子どもの頃、高価な宝石でなくとも、河原や海岸できれいな石を見つけると、心が躍り持って帰ってきていたのを思い出しました。高校生の娘が、小さいころ、道に落ちている何の変哲もない石を拾ってきては大事そうにしているのを不思議そうに見ていましたが、きっと大人の目には見えない魅力があったのでしょう。